

資格合格者各位

2015年10月メンタルケア心理士®、メンタルケア心理専門士®
出題範囲及びガイドライン改定に伴う補完学習のご案内

拝啓 資格合格者の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、2015年10月に行いましたメンタルケア心理士、メンタルケア心理専門士出題範囲及びガイドライン改定に伴う補完学習についてご案内いたします。

2004年認定を開始したメンタルケア心理士、2005年認定を開始したメンタルケア心理専門士ともに、2015年で10年を超え、多くの指定教育の受講者、合格者を輩出してまいりました。当学会では、この10年を節目として、当該資格認定試験出題範囲およびガイドラインの拡大、深化を行うことにより、当該資格保有者の有知識を向上させることを目的とし、出題範囲およびガイドラインを2015年度より改訂することを、2014年度初頭に「2015年度メンタルケア心理士・准メンタルケア心理専門士・メンタルケア心理専門士の出題範囲及びガイドライン改定」として、受験要項およびホームページにて公示しています。

これから、メンタルケア心理士・准メンタルケア心理専門士・メンタルケア心理専門士資格合格を目指す方には、出題範囲及びガイドラインの改定について移行期間を設け、2017年4月1日より改定後の出題範囲及びガイドラインへの完全移行を行う流れとなります。

そこで問題となるのが、2017年4月1日からの資格合格者と、それ以前の資格合格者との間には有知識・技術の差が出ることは取得資格名が同じという観点からも資格による知識・技術の証明の統一性が損なわれることです。そのため、2017年4月1日以前にメンタルケア心理士、准メンタルケア心理専門士、メンタルケア心理専門士資格に合格された方には、2015年10月改定にともなう範囲の知識・技術の補完を、ご希望により実施していただき、補完証書を当学会より発行することにより、2017年4月1日からの資格合格者と同等の知識と技術を有することを証明することといたしました。

資格合格者の皆様におかれましては、「2017年4月1日からの出題範囲及びガイドラインにおける追加事項」(別添)をご覧ください、ご理解の上、今後の活動に有用とお考えの方は、この機会に補完学習をしていただきますようお願い申し上げます。なお、別紙1にて補完学習にともなう、資格合格者の皆様への確認と実施事項をまとめておりますので併せてご確認くださいませようお願い申し上げます。

今後とも当学会の活動へのご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

平成28年4月1日
メンタルケア学会

資格合格者の皆様へのご確認事項

2015年10月メンタルケア心理士、メンタルケア心理専門士出題範囲及びガイドライン改定に伴う補完学習つきまして、以下の事項をご確認いただき、該当する資格合格者様は所定の手続きを期間内にお済ませいただきますようお願い申し上げます。

1. スクール、学校等で学んだ際に配布された当学会指定テキストの裏の発行年数をご確認ください。

◎当学会指定テキストは以下の通りです。

【メンタルケア心理士】3冊

・精神解剖生理学基礎 ・精神医科学基礎 ・カウンセリング基本技法

【メンタルケア心理専門士】5冊 ※准メンタルケア心理専門士も同様

・精神医科学緒論 ・面接技法 ・カウンセリング技法 ・応用生活心理学 ・精神予防政策学

◎当学会指定テキスト裏の発行年数のご確認

<記載例>

日本学術会議協力学術研究団体
メンタルケア学術学会監修
面接技法
2015年5月15日 第2版第17刷
改訂 2015年10月1日 第1版第1刷
共著／別府武彦・小松政剛
発行者／別府武彦
発行所／教育ナビゲーション株式会社
印刷所／〇〇印刷株式会社
©B.TAKEHIKO 2015 Printed in Japan

改訂 2015年10月1日
第1版第1刷

この表記がされていて、日付が2015年10月1日またはそれ以降であれば、2015年10月改訂テキストでの学習をされているという証明です。

◎2017年4月からの出題範囲及びガイドライン（別紙2）

改定により追加となった学習項目は□で囲っています。

別紙2

【メンタルケア心理士】

学習項目	内容
<p>【精神解剖生理学基礎】</p> <p>1. 生化学に関する基礎知識</p> <p>2. 解剖生理学に関する基礎知識</p> <p>3. 生理心理学・認知心理学に関する基礎知識</p> <p>4. 薬についての基礎知識</p>	<p>1. ・染色体と遺伝子 タンパク質 酵素 脂肪 炭水化物</p> <p>2. ・人体の組織：骨格、筋肉 ・人体の器官：消化器系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、感覚器系、内分泌系、神経系</p> <p>3. ・ストレス ・認知や感情と脳の関係 ・睡眠 ・記憶</p> <p>4. ・薬理学：吸収、分布、代謝、排泄 薬の形状</p>
<p>【精神医科学基礎】</p> <p><DSM-5分類法に準拠></p> <p>1. 精神障害に関する基礎知識</p> <p>2. 発達心理学に関する基礎知識</p> <p>3. 身体疾患と精神症状に関する基礎知識</p> <p>4. 薬剤に関する基礎知識</p>	<p>1. ・統合失調症 妄想性障害 緊張病 ・双極性障害 抑うつ障害 ・不安症 強迫症 PTSD ・神経発達症（発達障害） ・摂食障害 ・睡眠障害 ・パーソナリティ障害</p> <p>2. ・発達過程と課題 ・危機 ・認知発達</p> <p>3. 腎不全 肝炎 脳卒中 パーキンソン病 認知症 糖尿病 クッシング症候群 更年期障害 甲状腺機能低下症 癌 ステロイド 梅毒</p> <p>4. ・抗うつ薬（三環系（第1群）、四環系（第2群）） ・SSRI（第3群） ・抗不安薬：ベンゾジアゼピン系 ・抗精神薬：フェノチアジン系 ベンザミド系、ブチロフェノン系 ・抗精神薬・睡眠薬系統等</p>
<p>【カウンセリング基本技法】</p> <p>1. カウンセリングとは</p> <p>2. カウンセリング概論</p> <p>3. カウンセリング倫理</p> <p>4. カウンセリングと医療の関係</p> <p>5. 心理療法基礎</p>	<p>1. ・カウンセリングの歴史 ・カウンセリングの目的 カウンセラーの存在 職域におけるカウンセリング</p> <p>2. インテーク面接 共感的理解 心理アセスメント 感情語リファーマ</p> <p>3. ・カウンセリングに関わる倫理 ・守秘義務とその例外</p> <p>4. チーム医療 地域精神医療 ケースカンファレンス</p> <p>5. ・精神分析療法 ・来談者中心療法 ・指示的療法 ・ケーススタディ</p>

【メンタルケア心理専門士】

学習項目	内容
<p>【精神医科学緒論】</p> <p>1. 検査学</p> <p>2. パーソナリティ心理学</p> <p>3. 質問紙法</p> <p>4. 作業検査法</p> <p>5. 投影法</p> <p>6. 知能検査・発達検査</p> <p>7. その他の検査</p>	<p>1. ・標準化 信頼性 妥当性 状態・特性 テストバッテリー</p> <p>2. ・類型論 特性論 主要5因子モデル</p> <p>3. ・18種類の質問紙検査に関する基礎知識</p> <p>4. ・内田クレペリン精神作業検査</p> <p>5. ・6種類の投影法検査に関する基礎知識</p> <p>6. ・知能指数 ・知能検査と発達検査に関する基礎知識</p> <p>7. ・EEG CT MRI 光トポグラフィー 唾液アミラーゼ 認知機能検査</p>
<p>【面接技法】</p>	<p>1. 看護とカウンセリング</p> <p>2. コミュニケーション方法</p> <p>3. 面接の種類</p> <p>4. 守秘義務等・倫理</p> <p>5. コミュニケーションに関する心理学 ・対人コミュニケーション 印象形成 権威への服従 誤帰属 アサーション</p> <p>6. カウンセリングの準備（視線と椅子の座り方）</p> <p>7. インテーク面接（初回面接または受理面接）</p> <p>8. レポートと共感</p> <p>9. ケーススタディ（事例検討）</p>
<p>【カウンセリング技法】</p> <p>1. 基礎心理学と心理療法</p> <p>2. 行動療法</p> <p>3. 認知療法 論理療法 認知行動療法</p> <p>4. 自律訓練法</p> <p>5. 様々な心理療法</p>	<p>1. ・学習心理学 認知心理学</p> <p>2. ・行動分析 系統的脱感作 トークンエコノミー シェイピング モデリング</p> <p>3. ・認知の歪み 活動記録表 ACT マインドフルネス</p> <p>4. ・自律訓練法</p> <p>5. ・家族療法 ・ブリーフセラピー ・ナラティブセラピー ・交流分析 ・ゲシュタルト療法 ・意味療法 ・遊戯療法 ・箱庭療法 ・心理劇（サイコドラマ） ・内観療法 ・臨床動作法 ・ピア・カウンセリング ・ヘルスカウンセリング ・心理劇（サイコドラマ） ・ヘルスカウンセリ</p>

	ング
<p>【応用生活心理学】</p> <p>1. ストレスに関する心理学</p> <p>2. 発達課題とストレッサー</p> <p>3. 家庭内心理学</p> <p>4. 時間的流れから見た心理</p> <p>5. コミュニティ心理学</p>	<p>1. ・認知心理学とストレス ・ライフイベントと ストレス ・コーピング</p> <p>2. ・家庭環境と発達心理学 発達課題と心理的ス トレッサー</p> <p>3. ・生活の役割</p> <p>4. ・胎児から青年へ ・老年心理学</p> <p>5. コミュニティ心理学</p>
<p>【精神予防政策学】</p> <p>1. 社会心理学・産業心理学</p> <p>2. 精神予防政策学</p> <p>3. 社会と人</p> <p>4. 精神疾患予防に関わる職域</p> <p>5. 職場における心的環境整備</p> <p>6. 精神科リハビリテーション概要</p>	<p>1. ・集団心理 リーダーシップ ソーシャルサポ ート</p> <p>・ホーソン実験 EAP バーンアウト</p> <p>2. 精神衛生について 健康の定義 病気の定義 精神衛生の援助サービス方法</p> <p>3. 社会と人</p> <p>4. 精神疾患予防に関わる職域</p> <p>5. 職場における心的環境整備</p> <p>6. 精神科リハビリテーション概要</p>

<確認手段と補完学習修了認定取得方法>

資格合格された資格の当学会指定テキスト裏すべての発行年数のご確認をお願いいたします。

○改訂テキストをお持ちの方（改訂補完学習対象の方）

別紙の「補完学習修了認定申請書」を当学会所定の手続きに従って提出し、修了認定試験合格後に補完学習修了認定を受けることができます。この認定により、資格登録者であれば活動領域に改訂分野の領域が加わることとなります。

なお、メンタルケア心理専門士の補完学習修了認定申請をされる場合は、下記【注意事項】※4をご確認ください。

●改訂テキストをお持ちでない方（改訂補完学習対象外の方）

改定の補完学習をするためには下記の2つの方法があります。

1. 当学会ホームページより改訂テキストのみ購入し、別紙の「補完学習修了認定申請書」を当学会所定の手続きに従って提出し、補完学習修了認定試験合格後に補完学習修了認定を受けることができます。

※メンタルケア心理士改訂テキスト・・・・・・・・購入条件により販売価格が異なります。

※メンタルケア心理専門士改訂テキスト・・・・・・・・購入条件により販売価格が異なります。

詳しくは当学会ホームページをご覧ください。

上記1の方法の場合、学習における質問は受付しておりません。ご自身で改訂テキストを学習していただき、「補完学習修了認定申請書」当学会所定の手続きに従って提出したのちに、補完学習修了認定試験問題が送付されますので所定の手順に従って提出をしてください。合格であれば補完学習修了認定を受けられます。

※補完学習修了認定試験受験料3,500円

なお、メンタルケア心理専門士の補完学習修了認定申請をされる場合は、下記【注意事項】※4をご確認ください。

2. 当学会附属校「TERADA 医療福祉カレッジ」または教育指定校「ヒューマンアカデミーたのまな」の改訂プログラム通信講座を修了し、別紙の「補完学習修了認定申請書」を当学会所定の手続きに従って提出することで補完学習修了認定を受けることができます。

2は改訂テキストを使用した添削指導と修了試験、質問が可能な通信教育講座です。

※修了認定試験受験料は受講料に含まれます。

※2で学習修了時に交付される「修了認定証」が改訂補完学習修了の証明となります。

※メンタルケア心理士改訂プログラム通信講座22,000円

※メンタルケア心理士・心理専門士改訂プログラム通信講座48,000円

詳しく講座内容は TERADA 医療福祉カレッジまたはヒューマンアカデミーのまなにお問い合わせください。

【注意事項】

- ※1. 補完学習修了認定試験受験は改訂テキストを当学会で購入した資格登録者が対象です。該当しない方は受験申請できません。
- ※2. 補完学習修了認定の取得は、強制ではありませんので資格登録者様ご自身でご判断ください。
- ※3. 補完学習修了認定の申込期日を延長し2018年3月31日までといたします。以後の補完学習修了認定については未定です。最新情報は当学会ホームページで告知をいたします。
- ※4. 補完学習修了認定を受けていない場合、資格登録者であっても改訂範囲の領域については、呼称を使用した活動の対象外となります。活動についての規約は「資格合格および資格登録に関わる規約」をご確認ください。
- ※5. 改訂テキストはメンタルケア心理士、メンタルケア心理専門士それぞれ別に購入できますが、メンタルケア心理専門士の補完学習修了認定試験は、メンタルケア心理士の改訂テキストを購入（通信講座受講者は改訂プログラムメンタルケア心理専門士通信講座の受講を）していない場合は受験できません。
- ※6. 補完学習修了認定試験が不合格の場合は、1回に限り再受験が可能です。再受験方法については当学会所定の手続きに従い申請してください。なお、再受験は任意です。
また、再受験に不合格の場合は、補完学習修了認定試験をはじめから申請してください。
1) 再受験不合格の場合の補完学習修了認定試験の再申請受験料1, 500円
- ※7. 補完学習修了認定を受けていない場合でも、試験合格は喪失することはありません。

【改定・改訂に関するお問い合わせ】

学会本部事務局

03-5326-7785

(平日 10時～18時)

【補完学習修了認定申請に関するお問い合わせ】

研究業務センター

0948-83-5588

(平日 10時～18時)